

# 全体把握



## 第一段

例ブルージーンズ

東京 = 「お若いですね」と言われる。

ニューヨーク = 何も言われない。

論東京では、年齢と関係のない事物に年齢との関係をつけたがる。

例結婚と年齢

論日本では「若者向け」の商売が繁盛する。

例自動車、喫茶店、週刊誌

要約日本では事物と年齢を関係づけたがり、「若者向け」の商売が繁盛する。

## 第二段

問題提起「若者向け」の文化はあるのだろうか。

例「若者向け」

「万人向け」

ジーンズ、結婚、自動車、喫茶店  
週刊誌、

二次方程式の解法、癌の治療法、核兵器反対運動、  
民法、クラシック音楽や絵画、宗教

文化のつまらぬ部分

文化の重要な部分



論文化の重要な部分は年齢性別と関係ない。

要約文化の重要な部分は年齢性別と関係なく、「若者向け」の文化はない。

## 第三段

問題提起今日の日本社会が、あたかも「若者向け」の文化があるかのように振る舞う理

由は何か。

論①商業主義

論②経済階層に応じて文化の違いがない。

多数の少数民族の固有の文化が共存することもない。

比較的同質の大衆文化

分節化

年齢、性別

↓

年齢によって同質の文化を分節化する。

論③文化を分節化や特殊化する欲求が強かった。

文化を特定の集団に割り当てる。

「若者」

↓

日本社会全体が、日本文化の特殊性を強調する。

例 フランス人 = 自国の文化はどんな外国人にもわかるはずだと誇りに思っている。

例 日本人 = 自国の文化をどんな外国人にもわかるはずがないと貴ぶ。

↓

論文化とは、個人間、集団相互に話を通じさせる工夫である。